

令和7年度 ファミリー・サポート・センター講習会のご報告

【 昨今の子育て事情について 】

日 時：令和7年10月7日（火）午前9時30分～午前11時30分

講 師：新潟中央短期大学

准教授 稲場 健先生

子育てに関わる全ての方が、抱え込んでしまいがちな悩みや問題などについて、それぞれの立場の方の心が少し前を向けるような、考え方のヒントをもらえるような講習会でした。

日本では、「くっつく」ということが親和性があり好まれるようです。確かに愛着形成等において、それは特に乳幼児期にでは大事です。しかし、適切に「離す」ができることで、子育て負担の軽減のほか、子どもの発達には「他者に触れる・関われる」などの多様な社会交渉を豊かに享受できることなどから「適切な母子分離はわるいことではありません。むしろ重要なんですよ」とお話をされていました。

受講された方からは「今日話を聞いて、できることからやっていけばいいのだと改めて思った」や「子どもを育てる環境は家庭だけではなく地域や社会全体で支えることの大切さを改めて考えさせられました」などの感想が聞かれました。



【 家庭での災害対策について 】

日 時：令和7年10月16日（木）午前10時00分～午前11時00分

講 師：新発田市 地域安全課

消防防災係 高橋信弘専門員

命を守るための行動や気をつけておくの良いこと、備蓄の考え方などについて、お子さんと一緒のときだけではなく普段の生活から取り入れておいた方が良い減災を学びました。

地震が起きたときには、どのような行動をとることが大切かご存じの方も多いと思います。

身を守る行動の1つとして、保育園や小学校では「ダンゴムシのポーズ」と身近な生きものをういて教えてもらいます。身をかがめて小さくなり頭を守ります。このときに、頭を手で覆い守りますが、片手は後頭部、もう片手は首の後ろを守るとより良いそうです。

また、お腹を守るようにするのも理由があり、背中側には骨があり衝撃から内臓を守ることができますが、お腹側には骨がないので内臓に衝撃が加わることを防ぐためにも大切なことを教わりました。

普段から、家庭の中の点検を行い、家具が倒れてこないかや、本や食器などが飛び出してこないかなど、減災について今一度確認できる講習会になりました。



【 子どもの感情の育みについて 】

日 時：令和7年11月7日（金）午前9時30分～午前11時30分

講 師：新潟中央短期大学

准教授 稲場 健先生

感情をコントロールできるようになるには、順番があることや感情の発達を育む関わり方、乳児期の感情調節の仕方などから気持ちを受けとめること（気持ち・感情の代弁など）、安心・安定を育むため「枠（制限）を伝えること」の大切さなどについて学びました。

例えば、おもちゃをとられて他児を叩いた場合について、「おもちゃをとられて嫌だったんだね」「このおもちゃで遊びたかったんだね」など、子どもの思いについては受け止めることができます。しかし、叩いた行為については「叩くのはいけません」「叩くのはやめようね」など、枠（制限）を伝えていくという関わりが大事です。この2つの関わり（気持ちの受け止めと枠を伝えること）が子どもの感情の調節に役立つのだそうです。

受講された方からは「子育て中なので、子どもとの関わりで大切なことを教えてもらえてよかったです。日々の生活で意識して関わりたいと思います」や「感情の代弁」「枠を伝える」ということを心がけながら子ども達と関わっていこうと思います」などの感想が聞かれました。



【 普通救命講習Ⅲ 】

日 時：令和7年11月14日（金）午前9時30分～午前11時45分

講 師：新発田地域広域消防本部

浅田消防士 他

119番通報から傷病者の元に救急車が到着するまでの時間は、全国平均で9分かかるとことや救命処置が行われなかったことで、その後の後遺症や社会復帰率に影響を及ぼすことなどをDVDで学んだ後、心肺蘇生とAEDの実技を行いました。

心臓が止まってしまうと10秒あまりで意識がなくなり、3～4分以上そのままの状態が続くと脳の回復が困難になります。胸を強く圧迫する「胸骨圧迫」は、止まってしまった心臓の代わりに血液を脳などに送り後遺症の予防に努めることができます。

受講された方からは「定期的に受けないと、とっさの時に対応できないと感じた」との感想が聞かれました。

提供会員の皆さんには、少なくとも5年に1度は必ず受講することが必要になっておりますので、忘れずに受講いただけますよう宜しくお願いいたします。



お忙しい中、ファミリー・サポート・センター講習会にご参加いただきまして、ありがとうございました。

